

Title	外国語学習における絵本多読の効果 絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー
Author(s)	渡邊, 奈緒子
Citation	一橋大学国際教育センター紀要, 7: 71-82
Issue Date	2016-07-30
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/28056
Right	

外国語学習における絵本多読の効果
— 絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー —Extensive Reading of Picture Books and Its Effects on Second Language Acquisition:
Interviews with Learners Who Have Read Many Picture Books

渡邊 奈緒子

要旨

本稿では、成人の第二言語習得のための多読に子ども向けの絵本を用いることの効果を、3言語（日本語、韓国語、英語）の学習者へのインタビュー調査の結果を基に考察した。その結果、学習者の情意面と言語習得面にプラスの効果があることが明らかになった。ただし、言語ごとの特徴や、学習者の年代、学習レベルなどによる違いについてはさらなる検証が必要である。また本調査によって、学習者にとって絵本の読みやすさを決めるのは、絵の印象（好みに合うかどうか）、文字（文字の量と書体）、内容（内容に関心を持てるかどうかと内容のわかりやすさ）、語彙（擬音語・擬態語の多寡）の4つの要素であることが示唆された。

キーワード：多読、読み物、絵本、読みやすさ

1. はじめに

多読 (Extensive Reading) とは、やさしい読み物を大量に読むことによって言語を習得していくアプローチのことである。英語教育界では、多読の意義や効果が広く認識され、世界中で実践が行われている。多読に関する研究も進められ、読む力だけにとどまらない総合的な言語習得の効果と、自信や学習意欲の向上といった情意面での効果が報告されている (Krashen 1993 ; Day & Bamford 1998)。日本語教育においても近年多読の必要性が認識され始め、多読用読み物の開発が進められるとともに、国内外の大学・日本語学校などで実践が拡がりつつある (栗野他 2012)。日本国内における韓国語教育においても同様に多読の実践が徐々に拡がりつつある。しかし、学習者のために語彙や文法を制限して作成されたレベル別読み物 (Graded Readers) が豊富に揃う英語とは異なり、日本語や韓国語の教育現場では十分な読み物が揃わないことから、子ども向けの絵本を実践に用いるケースがある。子ども向けの絵本は成人学習者にはふさわしくないという声も存在するが、筆者のこれまでの実践現場では、絵本を読むことによって目標言語での読書に楽しみを見出し、読む意欲と読む力を向上させていく成人学習者が存在していた。しかし、一方で絵本を使うにあたっては、各自の言語レベルや興味に合った絵本が選べない、レベル分けされていないために上達を実感できないといった問題にぶつかることもあった。そこで、本稿では、子ども向けの絵本を多読に有効に活用することを目標に据え、絵本を多読に用い

ることによる効果と絵本の読みやすさを決める要素を、3言語（日本語、韓国語、英語）の学習者へのインタビューの結果を基に考察した。

2. 調査の概要

2.1. 調査目的と調査協力者

成人学習者が子ども向けの絵本を読むことをどう感じているか、絵本の多読によってどのような効果を実感しているか、また絵本の読みやすさについてどのような意見を持っているかを明らかにするため、絵本を用いた多読の経験がある成人学習者10名を対象に、対面録音で1人40～60分程度の半構造化インタビューを行った。

調査協力者は10名（日本語学習者3名、韓国語学習者5名、英語学習者2名）である。協力者は全員何らかの多読のクラスに自主的に参加して多読を行っている。日本語学習者3名のうち2名（JA2・JA3）は「多言語多読¹」で週に1度開催されている「日本語多読の会」に参加していた留学生であり、1名（JA1）は同じく「多言語多読」にて3年半にわたって日本語多読のプライベート授業を受けている学習者である。日本語学習者は、多読用の読み物、絵本、漫画など、合計300冊程度の選択肢がある環境で、支援者のアドバイスを受けながら各自本を選んで読んでいる。韓国語学習者5名は、「多言語多読」にて筆者が開催している「韓国語多読の会」の参加者である。この会では約300冊の韓国語の絵本の中から、学習者が自分の好みやレベルに合った本を選んで読んでいる。英語学習者2名は「多言語多読」の講座に参加しているが、英語の場合は多読用の読み物から一般書まで数千冊の選択肢が与えられている。いずれの言語でも、多読を行う際はやさしいものから辞書をひかずに読み進め、わからないところがあったら飛ばし、合わない本は途中でやめるといった読み方が推奨されている。一冊読むごとに読んだ本の題を記録し、多読の会や授業の最後には印象に残った本について簡単に話す活動が行われる場合もある。

表1では、大学以前の学校教育における学習を除いた学習歴を記した。学習者が目標言語で読んだ本の冊数を記録していない場合は、冊数の欄を空欄とした。

¹ 「NPO 多言語多読」。多読による外国語講座（英語、日本語、韓国語、スペイン語）の他、読み物の作成、多読支援者の養成、実践の報告・発表などの活動をおこなっている。

表1 協力者一覧 (10人)

	学習言語	ラベル	母語	学習レベル	学習歴	冊数	性別	年代
1	日本語	JA1	ドイツ語	中級	3年6ヶ月	110	男性	50代
2	日本語	JA2	マレーシア語	上級	5~6年	77	女性	30代
3	日本語	JA3	ノルウェー語	中級	1年6ヶ月		男性	20代
4	韓国語	KR1	日本語	初級	1年6ヶ月	51	女性	30代
5	韓国語	KR2	日本語	中上級	11年1ヶ月	117	男性	40代
6	韓国語	KR3	日本語	中級	3年1ヶ月	225	女性	50代
7	韓国語	KR4	日本語	中上級	10年	152	女性	50代
8	韓国語	KR5	日本語	中上級	25年		男性	50代
9	英語	EN1	日本語	上級	3年6ヶ月		女性	50代
10	英語	EN2	日本語	上級	6年	2,300	女性	60代

2.2. インタビュー項目と分析項目

インタビューでは以下の3つのカテゴリについて質問をした。

- (1) 絵本を用いた多読について (絵本を読んだ感想、他の読み物との違い)
- (2) 効果の実感 (技能の向上、読み方の変化)
- (3) 絵本の読みやすさについて (読みやすい絵本と読みにくい絵本の特徴)

全体で約15の質問を用意し、回答に合わせて順番は前後したが、基本的にすべての質問を投げかけ、回答者には制限なく自由に発話してもらった。10人の回答うち、原則的には複数の学習者から同様の意見が出たものを分析項目として取り上げたが、一人からの意見であっても、筆者が興味深い指摘であると考え、例外的に取り上げたものもある。

3. インタビュー結果

3.1. 絵本を用いた多読の印象

① 心理的なハードルの低さ

韓国語学習者の3名が、絵本の多読を始めた動機として、絵本なら自分にも読めるのではないかと期待したことを語っている。絵本はやさしいというイメージから、不安が抑えられ、自己に対してある程度の自信を持って臨めたことがうかがえる。

KR1	絵本ならわかるかもしれないという期待もあった。
KR2	絵本だったら読めるかなと思った。一般の書は無理だから、やっぱり絵本だったらいけるんじゃないか。
KR3	単純に普通の本より簡単かもしれないと思ったからです。

② 絵本の楽しさ

3言語の学習者に共通して、絵本を読むことが楽しいというコメントが出現した。KR4・EN1からは「癒される」というコメントも出ている。KR1・KR4は、教科書を読むとき

の感情と比較して、絵本の場合は勉強だという心理的負担がないと語っている。また、KR2・KR3は大人が読んでも楽しめる絵本があると述べている。

JA2	絵本のほうが好きなんです。やっぱり絵がついてるのが目立つ、あるいは自分も本に引きつけられて(中略)読むとそんなに疲れ気味ではない。もし全体的に絵がついていないと、最初から見るとちょっと飽きちゃうという気持ちもあります。
KR1	絵本に触れる、絵本に会いにくるのが本当に楽しみ(中略)テキストを読むときは楽しくないですね。学びって感じで。勉強が本当に嫌いなので、絵本のほうが楽しく学べる(中略)結局は反復になるじゃないですか勉強って。でも本当に勉強嫌いなので楽しい反復じゃないとやっぱり身にならない。それが絵本にはある、できる。
KR2	大人が読んでも楽しめる人生の示唆に富んだ絵本もやっぱりあるので、うーんと考えちゃうものもあるし、子どもっぽいなっていうふう考えたことはわりとないですね、僕は。楽しんでやってみるし、いい本あるなっていう感じで。
KR3	大人向けのものが多いので、韓国の絵本は楽しい。
KR4	大きな違いは、絵本はやっぱり楽しい。あと、読んでなんか気持ちがすごい癒されるみたい。(中略)教科書だったりテキストだったりとかは、読まなきゃいけないっていう、ちょっと肩に重しがのるようなそんな感じが若干あるので。それがちょっと差があるかなと思いますね。
EN1	楽しいし、癒されますね。

③ 絵があることのメリット・デメリット

絵本を読むことのメリットとして、絵が内容を理解するうえでの助けになり、テキストが多少わからなくても読み進められるというコメントが出ている。KR3は絵があることによって単語を日本語に訳さずダイレクトに理解できるようになり、母語のように感覚的に意味が掴めるとコメントしている。このように絵の力を借りながら、わからない単語があってもそれらを推測したり、飛び越えたりして読み進める経験を積んだことが、読み方の変化にも影響を与えていると考えられる。この点については後述する。

JA1	やっぱり絵がついているとわかりやすくなりますよね。
KR1	理解できなくても、とりあえず読み進めることはできるし、印象も持てる、感情も動くし。
KR2	やっぱり絵があるとその場面を想定できて(中略)理解度は絵があったほうが上がると思います。それはやっぱり格段に違うと思いますね(中略)文章だけ書いてあってわからない面があるんですけど、次の挿絵を見たときにこういうことだったのかって(中略)わからなくても挿絵がいっぱいあると挿絵で勝手にストーリーをつなげてしまって、で、勝手に理解しちゃうっていうのもあったりして、それは絵はだいぶ助けになりますね。(中略)今のところはやっぱり絵があるほうが楽しかったりするんですよね。
KR3	知っている単語がより母国語に近い単語になるには、絵はすごい助けになる。(中略)知らなかった単語も絵によって感じがつかめるし、だからちょっと困ってるのは日本語に訳せない単語が出てきちゃうな。なんか感じはわかるけど日本語でなんて言ってもいいかわからないって形容詞が多いですけど、うん、母国語に近づけるという意味で絵本は、ただ知ってる言語から、母国語のように楽しむという意味で絵本はすごくいいと思います。
KR5	文字だけでなく、そういう視覚的な情報から類推とかできるから、絵本を使うことはいいと思う。

一方、KR2・KR3は、絵が理解の助けになることを認めたとはいえ、絵が好みに合わない場合や、今後テキストを読む力が伸びて、自分がテキストから想像で頭に描き出したものと絵との間にずれが生じた場合には、絵がかえって邪魔になることもあると指摘している。

外国語学習における絵本多読の効果
— 絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー —

絵本を用いることに肯定的な印象を持つかどうかは、学習者の学習歴や学習レベルにも影響される可能性があると言える。

KR2	もっと読めるようになってきちゃうと、その絵の印象に引っ張られちゃって、文面で書いているものと自分の想像している世界とマッチしなくなっちゃったときには、それはちょっとつらくなっちゃうのかな（中略）この絵嫌いなのに、でもこの文章は好きってのは、そこはつらくなっちゃうかもしれない。今のところは、文字を見ても想像があんまりうまくできないので、それを助けてくれる絵はすごく必要なんですけど、それを超えたときにはちょっとつらくなる、足をひっぱっちゃうかなって感じ。
KR3	やっぱり絵があることで邪魔っていうのはわかるんですよ。嫌いな絵がついてると確かに邪魔なんですすね。

④ 絵本を用いる際の問題点

絵本を用いる際の問題点としては、絵本には語彙や文法を基準とした読みやすさのレベル分けがなされていないため、自分のレベルに合った絵本を選択できないこと、1つ上のステージに上がったというレベルアップが実感できないことが指摘されている。これらは、体系的にレベル分けされた読み物が揃っている英語との比較で、主に韓国語学習者から出現した指摘である。

KR3	やっぱり弱点は、英語とか日本語みたいにレベル分けがきちんとされてないから、これで自分のレベルアップが、これを読めるようになったからとかいう、ちょっと目標の置きどころが薄いので、やっぱりもうちょっと単語の中身とか、字数だけじゃなく、レベルをしっかりと分けて、レベルアップを実感できるようにしたい。
KR4	やっぱり体系的には揃ってるわけじゃないじゃないですか。レベルとか。なので、本当に絵本だけで学習しようとしたらすごい難しいだろうなあって思うんですすね。だからある程度ベースがあって、絵本を選んでいくのはいいかなと思うんですけど、自分が読んでても、あ、これちょっと簡単すぎたみたいなのがあると、せっかく開いたんだけど若干がっかり感みたいなのがあったりするので、今レベル分けみたいなのも始めてますけど、それがもうちょっときちんとレベル分けができて、これを読んだら次この段階にステップアップできるとかっていうほうが、もしかしたら学習としてはいいのかなという感じはしています。
KR5	英語は本当に文字のないところから段階を追ってきてるので、あれはいいなあと思うんですけど（中略）絵本っていつでも結構難しいですすね。だから、英語みたいに段階を追ってレベル3・4・5みたいに整っていけば、自分の伸びも実感できるんじゃないかな。
EN2	この多読の学習法でやっていく場合には、私はそれ（Leveled Readers）を飛ばして近くにある絵本でやっても、よくまだわかっていないので絵本のレベルとかは（中略）きちっといかない。ORTは例えばLet'sが出てくる、Getが出てくる、そういうのをうまくグルーピングして、徐々に出るように構成ができてるので、引っ掛かりがとれればそこは一応私のものになったなとわかるので、上がっていきける。

3.2. 効果の実感

① 抵抗感・拒否感の減少と自信の向上

絵本の多読による効果の実感として、まず目標言語で書かれたものを読むことに対する抵抗感・拒否感が減少したというコメントが出ている。さらに、これまではできないと感じていた原書の読書について、「自分にも多少ならできるかもしれない」という自信や、「わからなくてもいい」という心理的な余裕が生じたことがうかがえる。ただし、抵抗感の減

少に関するコメントは韓国語学習者からのみ出現しているため、ハングル文字の影響についてもさらなる検証が必要である。

KR2	抵抗感は減りましたね。原書を見ても、やっぱり前はとっつけなかったんですけど、それが多分まったく何もないで見た時の状態も少し違うし、もしかして、このあらすじとか背景とかの情報がかんから手に入れられれば結構いけるんじゃないっていう、勝手な前向きな気持ちが入るようになった。
KR3	拒否感がなくなりましたね。こうハングル並んでいると、韓国語を勉強したくて勉強するのになぜか拒否感があって(中略)もう最初から読む気がしない、ああどうせわからないっていうのがなくなって、ひとつかふたつわかる単語があればいいやみたいな。(中略)ハードルが下がって、わかんなくてもいいやっていう気持ちになったので、ハングルが並んでいることが苦にならなくなったかもしれない。
KR4	もうちょっと経ったら小説とかもまた違う感じで読めるのかなというふうにちょっと思った。

② 読み方の変化

読み方の変化としては、わからないところを飛ばして読むことに慣れ、全体の大意を把握する読み方にシフトしていく様子が見られる。多読の指導としてわからないところを飛ばす読み方が推奨されていることに加え、自分自身でも絵の助けを借りながら「大体の内容はわかった」という大意を掴む成功体験を積んだことが影響していると考えられる。KR3・KR4は、多読を始めた当初わからないところをそのままにすることに対して抵抗を感じたと語っていたが、次第に「飛ばして読んでもいい」という態度に変化してきたことがわかる。またKR3は、自分が日頃そのような読み方を母語でもしていることに気づき、目標言語でも同じことをすればいいと感じたと語っている。読み方の変化にともなって、辞書の使用頻度や使用方法にも変化が生じたことがうかがえる。

KR2	今は(電子辞書の電池を)いつ交換したっけってくらい引かなくなっちゃった。
KR3	(日本語を)意外と全部読んでいないことに気づきました。(中略)でも意味がわかるからいいとして読んでいることが、あ、これを韓国語でもやればいいんだってことが逆にわかりました。意外と、あ、母国語はこうやって読んでるじゃないかと、なんで韓国語だけ全部わからないといけないと思いついてたんだらうっていう感じでした。(中略)大体わかったからいいのに、なぜ韓国語でそれが許されないと頑なに思ってたんだらうなあ。
KR4	多分そのわからないところを飛ばして読むのは、すごく慣れてきたなと思います。(中略)それも前だったら一個一個調べて読んだのを、わからないところをとりあえずざっと飛ばして読んで、全体を把握してから本当に気になるものだけを調べるとか、そういうふうに変ってきたので。
KR5	わかんないことばを飛ばして読むとかね、そういうことに抵抗がなくなったというか。前よりも。始める前はそうはいつでもやっぱり気になるよなみたいな部分があったと思うんですけど、半年ちょっとやってみて、わかんなくても、まあ内容わかればいいじゃないみたいな感じで(中略)抵抗感が少し前よりはなくなってきたのかな。こういう読み方もありじゃないのかなっていう、肯定的な捉え方というか、そういう気持ちが強くなってきた。

③ 読む力の向上

読む力に関しては、読むスピード、助詞の使い方、全体の大意を掴む力、推測力などが向上したとのコメントが出ている。KR3は、読むスピードと推測力が向上したことが韓国語能力試験の結果にも現れたと述べている。読解だけではなく、聴解と作文の点数も上がったという点が興味深い。

外国語学習における絵本多読の効果
 — 絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー —

JA1	スピードもどんどん速くなる。スピードもちょっと伸びたんじゃないですかと思いますが。
KR1	単語だけ覚えると「빨간 (赤)」とか「덥다 (暑い)」みたいな言い方しかできないけど、絵本のおかげで밖을 (外を) とかを (を)、은 (は) っていう流れをまあ若干ながら覚えることができたかな。接続する部分とか。
KR2	意外にわからなくても、ざっくりと理解できるものは増えて。
KR3	TOPIK (韓国語能力試験) が듣기 (聴解) と읽기 (読解) と쓰기 (作文)、全部 20 点平均、半年で上がった。やっぱり読むスピード、それから推測がつくようになったっていうのが一番大きくて (中略) 全部わかってないんですが、いくつかわかる単語をつなげ合わせて、なんとなくわかった気になれる。(中略) やっぱ全部読んでないですよ。でも答えられるようになった問題がすごく多くなって (中略) 説明ができないし、全部わかってないけれども、選んだものが合ってる確率が高い。韓国語力が上がったというのかわからないけれども、推測力が上がった (中略) この間、勉強してなかったんで、他に理由が考えられない。多読以外に考えられない。

④ 語彙の習得

ことばを覚えたというコメントも出現しているが、語彙習得の過程に絵本の多読ならではの特徴が見られる。KR3 は絵本を読むうちに絵とことばが母語を通さずに直結するようになり、母語に近づいた実感があると述べているが、このような変化は絵本だからこそ起きたものであると考えられる。KR1 は、1 冊の絵本の中で同じことばが絵とともに繰り返されたことで、その単語が記憶に定着したと語っている。KR1 が挙げた韓国語の絵本は、2 つの単語と絵だけで構成された作品で、全部で 11 文ある中、「비키다 (どく)」という動詞が 11 回繰り返されている。EN1 は、複数の本のさまざまな場面で同じことばに繰り返し触れたことで、多方面からことばの意味が構築されていき、記憶にも定着したとコメントしている。

また、日本語学習者の JP2 は、読み物の中の漢字とルビを見て、読み方を学ぶことがあったと述べている。絵本では漢字が使用される割合は少ないが、使われた場合にはルビが振られているため、読み方への気づきを促したと考えられる。

JA2	新しいことば、これはふりがながついていて、だから字の読み方はそうなんだとか、自分の単語能力も少し伸びた気がする。
KR1	覚えた言語は飛躍的に増えたんじゃないかと思っている (中略) (記憶に残っていることばは) やっぱりピッキョ。その本はずっとずっとピッキョ、ピッキョ、ピッキョ、ピッキョジマ、やっぱ繰り返しがあったから、まあ絵も手伝ってだけど、すごい脳に刷り込まれたんだと思います。
KR3	絵と一緒に絵本を読んでいるうちに、日本語に直せないけどなんかこういうやつっていう単語が増えた。例えば、いちいち日本語に直して、사과はりんごだ。りんごは赤くて丸いやつっていう頭の中の構造だったのが、簡単なのだと、사과っていうのがりんごじゃなくて、いきなり赤くて丸いやつ。だから、赤くて丸いやつ見て、あ、사과, 사과ってくるようになったので、スピードが上がったし、母国語に近づいた一歩、みたいな実感があります。
EN1	最初の頃は辞書を引きたい頃がありましたけど、そのうち面倒くさくなり、あとはいろんな簡単なものをたくさん借りていくと、別の本の中に同じことばが出てくるんですね。(中略) いろんなところで別のもので同じことばが出てくると、それが重なっていくうちに辞書を引かなくてもわかってくる。いろんな方向から来ますから、はっきりわかって、そして、そうやってゲットしたものは忘れない。

⑤ その他：文字がまとまりで目に入るようになったことによる音読への効果

韓国語学習者の KR3 は、絵本の多読を始めて 3 ヶ月ぐらい経った頃から、一度に目に入る文字の量が増えたことで単語を認識するスピードが上がり、苦手だった音読が急に楽になったと述べている。このようなコメントは KR3 一人からしか出現しなかったが、文字がまとまりで目に飛び込んでくるようになったというコメントは、読む力の向上にも関係があると考えられ興味深い。

KR3	3 ヶ月ぐらい経ったときに音読が急に楽になった。(中略) それまでは一回に一文字しか目に入らないので(中略)、ひとつ読んで、次の文字読んで、ああここは連音化するのかって戻って、一音ずつ読んでいくと、ものすごくたどたどしくなる。だから音読が苦手だったのが、一度に目に入る単語数が増えたので、例えば今まで앉아서という「アン」を読んで(中略)次に「ア」があってやっと「アンジャ」で、「ソ」が目に入って「アンジャソ」みたいな音読だったのが、「アンジャソ」が一篇に目に入ることによって、「あ、座るか、アンジャソって」そこは一気に読めるようになったのと、意味がわかってきたから推測がつくようになった、次のことばの。なので音読が3 ヶ月ぐらいですごい楽になったのが、ちょっと自分で「え、ここに出るのか」って思いました。
-----	--

3.3. 絵本の読みやすさ・読みにくさの要因

① 絵の印象

絵が自分の好みに合うかどうか、読もうとする意欲や読みやすさに影響を与えるというコメントが出現している。絵が好みでない本は初めから読む気がしないという意見もあり、絵が本を選択するうえでの重要な要素であることがわかる。

KR1	やっぱりどうしても絵本なので、絵の印象が思ったよりみたいになると、ちょっとくじけちゃうかな。(中略) まあ、絵本っていうくらいだから、やっぱり絵ありきかな。文章はその後。
KR3	読みにくい本は、まずは絵が嫌いな本。なかなか読む気にならない。(中略) もうひたすら好きな、好みの絵が入っていると、多少わからなくても最後まで目を通せるので。(中略) 絵のインパクトが大事ですね。
KR5	絵本だから絵のタッチ。絵本なんで当然絵の、この絵の本はちょっと読んでみたい、そういうのもある。
EN1	まずは自分の好みに合うかどうか(中略) それはだいたい本の絵とか、本の装丁とか

② 文字の量と書体

文字に関しては、まず文字が多いと読む気がしなくなるというコメントが出ている。本全体の文字量だけではなく、1 ページあたりの文字量や、ぱっと見たときにぎっしり詰まっていると感じる文字の密度なども読みやすさに影響していることがわかる。

KR1	(読みにくい本は) 字の多さ。字の多さと(中略) 厚みがあったりとか。
KR3	字数がやっぱりまだ多いと、後回しにしがちですね。1 ページに数行ぐらいですね。(中略) 1 ページに 3・4 行ぐらいまでが、まだ私は読みやすいと感じます。
KR5	パラパラって見て、まあ一番わかりやすいのは、文字が多いとちょっと、字が小さいとか、小さくてちょっとぎっしり書いてあるとか、これはちょっとパス(中略) やっぱり文字の大きさとか分量とか、そこでまず選別しますね。ぱっと見。もう内容じゃなくて。

外国語学習における絵本多読の効果
— 絵本多読の経験がある学習者へのインタビュー —

次に、絵本に使われている書体について、筆文字や手書きの文字が読みにくいというコメントが出ている。理由としては、KR2のコメントにもあるように、学習者が教科書で使われる特定の字体に慣れ親しんでいることの影響が考えられる。

JA1	読みやすいのは、多分コンピューターの字。
KR2	読みにくい絵本はやっぱり筆文字とかカリグラフィーとかですね。文字自体が、手書きで書いたやつとか、絵になっちゃってるやつとか、それはすごく読みにくくて（中略）読む気が失せちゃうんですね。ずっと教科書体ばかり学習者で見てきちゃったんで、それ以外の書体が入ってくるのはちょっとつらいかな。
KR3	最初はね、活字じゃない字体、手書き風の字体は苦手でしたが、それは慣れてきました。（中略）字が大きいこと。오（オ）とか우（ウ）とか識別しにくいので。
KR4	字がすごくあの、手書きの字のやつはちょっと読みにくくて。それがまだ慣れなくて、ちょっと読みにくい。

③ 内容

内容に関しては、まず、興味がある内容であったり、登場人物に共感できたりする作品は楽しく読めるというコメントがあった。どんな本に対して読みたい気持ちが湧くかは、学習者それぞれの興味や好みによって異なることがわかる。

JA1	興味があるの本はいちばん好き。あとは、物語の本。（中略）興味がない本はおもしろくない。
EN2	（本の登場人物が）好きだったんですね。自分が共感を持てるようなものに出会えて…

次に、ストーリーがあるもの、文にリズムがあるものが読みやすいというコメントが出ている。韓国語の学習歴が比較的短い KR1 は、ストーリーが単純明快なものが読みやすいとコメントしている。リズムについては、絵本のテキストにはことばや表現の繰り返しが多く見られ、そのパターンが掴めると円滑に読み進められるためだと考えられる。

KR1	ストーリーが単純明快（中略）想像がしやすい。（中略）韓国の歴史の本っていうのは、やっぱりどうしてもちょっと専門用語っていうか、ものが増えていくので、今はわたしはもうちょっと単純、ほんとに単純な絵と文章を欲しています。
KR3	数字とか図鑑とかよりは簡単なストーリーがあるもの。話の流れとかリズムとか展開があるものが好きかもしれません。（中略）エッセイみたいにストーリーがあったほうが推測がたやすいので、わからないことばも推測しやすくて読みやすいというのはあって、子ども向けの絵本はちょっと脈絡がなさすぎる（中略）私は脈絡がないものよりは、ちょっと話の展開があるもののほうが好きですね。物語になっているもののほうが読みやすい（中略）美しい映像が浮かぶような美しいことばを使っていると読みやすいです。
KR3	リズムのあるのが好きかもしれない。『걸었어』(本のタイトル) とかは、文体にリズムがあってすごく読みやすかったです。

④ 擬音語・擬態語の多寡

最後に、絵本特有の難しさのひとつとして、韓国語学習者から擬音語・擬態語の難しさが指摘されている。しかし、多読を続けるうちに擬音語・擬態語等を感覚的に捉えられるようになり、抵抗感が減ってきているというコメントもあった。

KR2	擬音語・擬態語は自分の感覚とはやっぱり違ったりしていて、絵を見ても「ん？」っていうときに、ちょっと理解に苦しむときがあったりして、そういうものは難しかったですね。
KR3	(絵本が難しいのは) やっぱり擬態語・擬音語が多いからだと思います。その苦手だった擬態語・擬音語も、日本語も置き換えるから、訳そうとするから嫌だったので、なんだけ、팔랑팔랑 (ひらひら) も別にそのまんま、こう感じるんだなみたいな、こんな感じのことを言うんだなってそのまんま楽しめば楽しいかも (中略) 抵抗は減ってるって感じ。
KR4	前だったらその、なんか擬態語とかはまったくなんかこう見ようともしなかったんですけど、ああ、こんなふうになんか入るんだとか、そういう感覚みたいな感じはちょっと前よりは感じてるかなあ。
KR5	絵本だけど、やっぱり結構難しい。擬音語・擬態語難しいですね。想像して読むしかないんだけど。

⑤ 漢字の使用

日本語の絵本特有の問題である漢字の使用について、日本語学習者からは「ひらがなだけで書かれるよりも、漢字を使っただけでルビが振ってあるもののほうが読みやすい」という意見が出ている。JA1はドイツ人、JA3はノルウェー人で2人とも非漢字圏の日本語学習者であるが、中国語母語話者であるJA2と同様、ひらがなだけで書かれると語の意味や切れ目が認識しにくくなり、かえって難しいとコメントしている。ただし、JA3が「最初はひらがなばかりがやすい(やさしい)」と述べているように、漢字の使用への感覚は、学習者の日本語レベルにも影響されると考えられる。

JA1	漢字とルビは好き。ひらがなだけはちょっと。ひらがなだけは、ことばはどこからどこまでか難しい。漢字があってそれは大丈夫。(中略) もちろんルビがないたくさん知らない漢字はできない。だから新聞はまだ読めない。
JA2	特に漢字がついている、読みやすくなります。もし全部ひらがなで書いてあれば、区切りがわからなくなります。ときどき、「は」あるいは「は (助詞)」が引っかかってなかなか進めない。
JA3	最初はひらがなばかりがやすい、でも、だんだん、漢字を見るは、何のことばがあるかわかります。実は今の場合は、文法のわかりやすいのために、漢字をふりがな入っていますのほうがいいです。ことばのわかりやすさ、わかりやすいです。

⑥ 縦書き・横書き

次に、縦書き・横書きのどちらがよいかについては、JA2・JA3から横書きのほうが慣れていて読みやすいというコメントが出ている。

JA2	読みやすいのは、横書きとふりがながついているのほうが読みやすいと思います。
JA3	洋式のほうがいいです。パソコンですが。普通のいつも読んでいる日本語は洋式、左から右側です。わたしのほうが左から右のほうが得意だと思います。

4. まとめ

絵本を用いた多読の経験がある日本語・韓国語・英語の成人学習者10名を対象にインタビュー調査を行い、絵本を多読に用いることにはどのような効果があるか、また、学習者にとって絵本の読みやすさを決める要素とは何かを検証した。その結果、絵本を多読に用いることによって、学習者の情意面と言語習得面にプラスの効果があることが明らかになった。情意面では、まず、「子ども向けの絵本はやさしい」という先入観が、学習者の情

意フィルターを低くするのに有効に作用し、不安の少ない状態で自信を持って多読の活動に参加できる土台となっていることがわかった。実際に多読を経験した後も、絵本に対しては好意的な意見が多く、理由としては絵が内容理解の助けになること、絵本を読むこと自体が楽しいことが挙げられていた。楽しく読めたという経験を積むうちに、目標言語を読むことに対する抵抗感・拒否感が減少し、意欲や自信が向上する様子も見られた。言語習得面では、新しいことばの習得に加え、わからないところを飛ばす読み方、母語に訳さずに目標言語のまま理解する読み方の習得を実感できているという声が聞かれた。読み方の変化にともなって、読むスピードが上がり、全体の大意を把握する力がついたことがうかがえる。このような変化は、多読という学習法一般の効果として、絵本ではない読み物を用いた多読の場合とも一致が見られるが、学習者のインタビューをつぶさに見ていくと、読み物が絵本であることによって一層読む楽しみや内容理解、母語を介さないことばの獲得が促進され、その影響が言語習得面でのプラスの効果に貢献していることがわかる。

絵本を用いる際の問題点としては、学習者向けのレベル分けがなされていないために、自分のレベルにあった本が選べず、ステップアップが実感できないという点が指摘されている。以上の結果をまとめると、絵本を多読に用いることは読む力と読むことへの意欲・自信を向上させるのに有効であるが、活用にあたっては学習者向けのレベル分けなどの工夫が求められることが明らかになった。

絵本の読みやすさを決める要素としては、絵の印象（好みに合うかどうか）、文字（文字の量と書体）、内容（内容に関心が持てるかどうかと内容のわかりやすさ）、語彙（擬音語・擬態語の多寡）の4つの要素が挙げられた。絵については、絵が自分の好みに合うかどうかを読もうとする意欲や読みやすさに影響を与えるという声が聞かれた。文字については、文字が多すぎず、読み慣れた書体で書かれているものが望ましいことがわかった。内容面では、興味が持てる話題であること、ストーリーがわかりやすいこと、文や表現が繰り返されリズムがあることが挙げられた。語彙については、絵本に頻出する擬音語・擬態語の難しさが指摘されている。これらの点に加え、日本語学習者からは、横書きのほうが読みやすく、ひらがなだけで書かれるよりはルビつきで漢字が使用されているほうが理解しやすいという意見が出ている。

以上、本インタビュー調査の結果、絵本を多読の読み物として用いることには第二言語習得へのプラスの効果があることが示唆された。ただし、今回の調査では多読クラスに自主的に参加している学習者を対象としたため、絵本を読むことへの肯定的な姿勢は学習者が本来持っていたものである可能性もある。また、本稿では全体的に韓国語学習者のコメントを取り上げる割合が多くなり、韓国語学習者だけが言及している項目もあるため、言語ごと特性や、言語の違いによる影響についてさらに検証を重ねる必要がある。今後、さらに対象者を拡大して調査を継続し、外国語学習における絵本多読の効果ならびに効果を高める絵本の選び方を明らかにしていきたい。

参考文献

Day, R. R. and Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge University Press

Krashen, S. D. (1993). *The Power of Reading: Insights from the Research*. Libraries Unlimited Inc.

Nuttall, C. (1996). *Teaching reading skills in a foreign language* (2nd ed.). Oxford: Heinemann

栗野真紀子・川本かず子・松本緑編著 (2012) 『日本語教師のための多読授業入門』アスク出版

酒井邦秀・神田みなみ編著 (2005) 『教室で読む英語 100 万語 多読授業のすすめ』大修館書店

(わたなべ なおこ 言語社会研究科修士課程修了生)